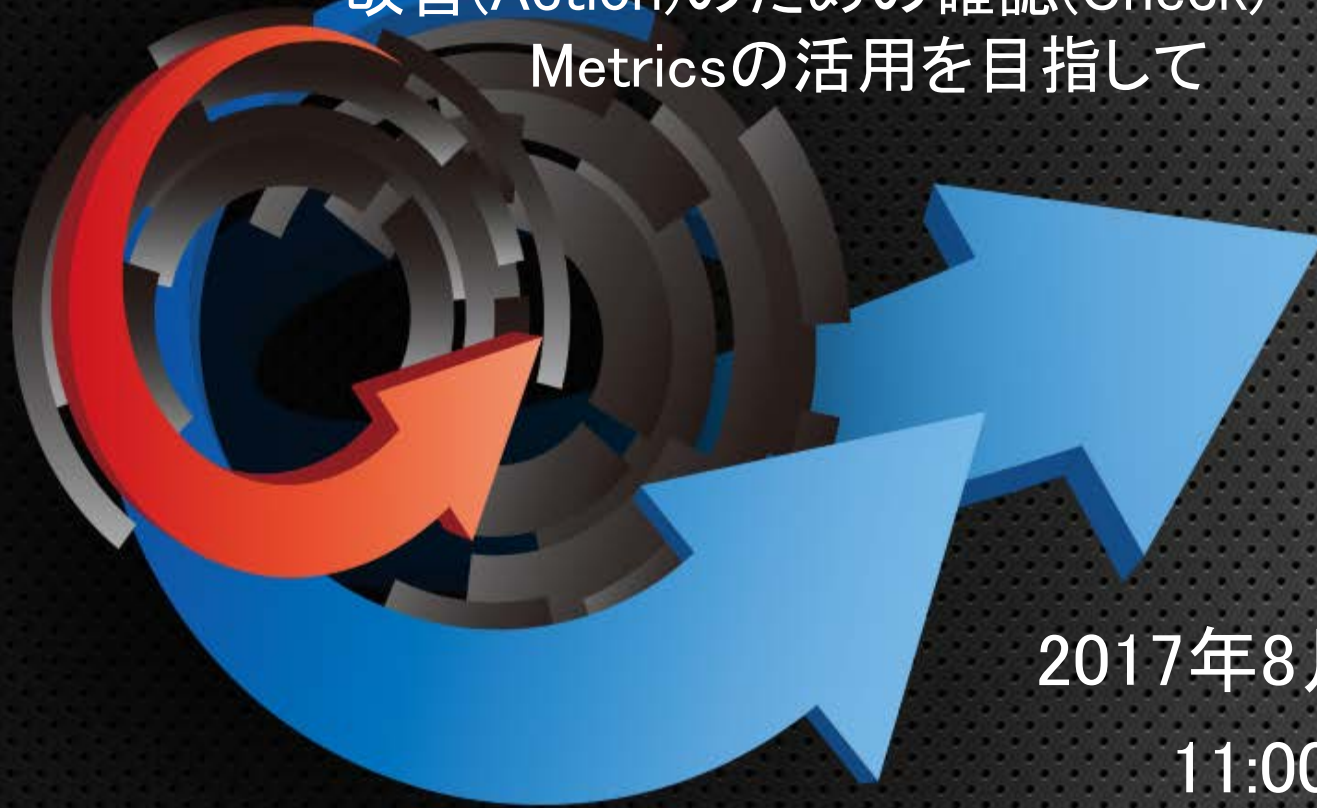


研究戦略を前進させるには:

目的達成に向けた実行(Do)のための計画(Plan)、
改善(Action)のための確認(Check)への
Metricsの活用を目指して



2017年8月30日(水)

11:00-12:30



講演者(オーガナイザー):
阪 彩香(大阪大学 経営企画オフィス リサーチ・マネージャー)

東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程修了、博士(生命科学)
博士号取得後、2004年より、文部科学省科学技術・学術政策研究所にて勤務。計量書誌学的アプローチを用いた日本や主要国の研究力モニタリング、ベンチマーキング手法の開発、世界においてホットな研究領域の抽出手法の開発等に従事。2016年11月に大阪大学経営企画オフィス着任。



講演者:
伊神 正貫(NISTEP 科学技術・学術基盤調査研究室長)

カーボンナノチューブやグラフェンの研究を経て、2002年から科学技術政策研究に従事。博士(工学)。日本の科学技術の現状や現場の声を政策立案の場に届けるべく、科学技術システムの定点観測、科学における知識創出プロセスの分析、科学研究のマッピングなどを実施。最近の関心事項は、科学知識が生み出されるプロセスの理解とそれに基づくインセンティブ設計、研究活動からみた日本の大学システムの生態系の理解、人文・社会科学の成果測定など。



司会:
池田雅夫(大阪大学 総長特命補佐 特任学術政策研究員／シニア・リサーチ・マネージャー)

1971年大阪大学工学研究科通信工学専攻修士課程修了、1973年～1995年神戸大学システム工学科に勤務、1995年～2010年大阪大学工学研究科機械系の教授として制御工学の教育と研究に従事。2005年度計測自動制御学会会長。2010年より大阪大学URA。2013年8月から2年間、副学長(URA担当)。2015年よりリサーチアドミニストレーター協議会副会長。

“metrics”とは？

- 測定すること、測ること
 <何のために、何を、どのように、測り、表すか>
- 何を測定するか：
 Scientometrics, Bibliometricsなど
- どのように測定するか：指標
 人の数
 研究時間数
 論文数
 被引用数
 特許数
 去年の感覚と今年感覚の違い など
- 何を測定し、どう表すか
 <基本的には比較をする>
 大学ごとに測定し、降順に並べた場合 ランキング
 現状を測定し、時系列で並べる 時系列データ
 現状を測定し、将来の目標値をたてる 数値目標

Metricsにより**数値**であらわされるので、**(一見)**分かりやすい。

分析者はデータを基に**数値に含まれる意味や状態**を理解し伝えることが役目

データを使う者がでてくると、その目的や使い方によって、意味や状態を**ほかの言葉**となったり、施策やプログラムなどを設定することで**人が動く**ようになる。

影響力(+-どちらもあり得る)

人の行動パターンを変えてしまう可能性も含んでいる

問題意識

“metrics”による可視化に対しての国内の
センシティビティの上昇

“metrics”の導入へのプレッシャーが
非常に短期間で強くなったこと



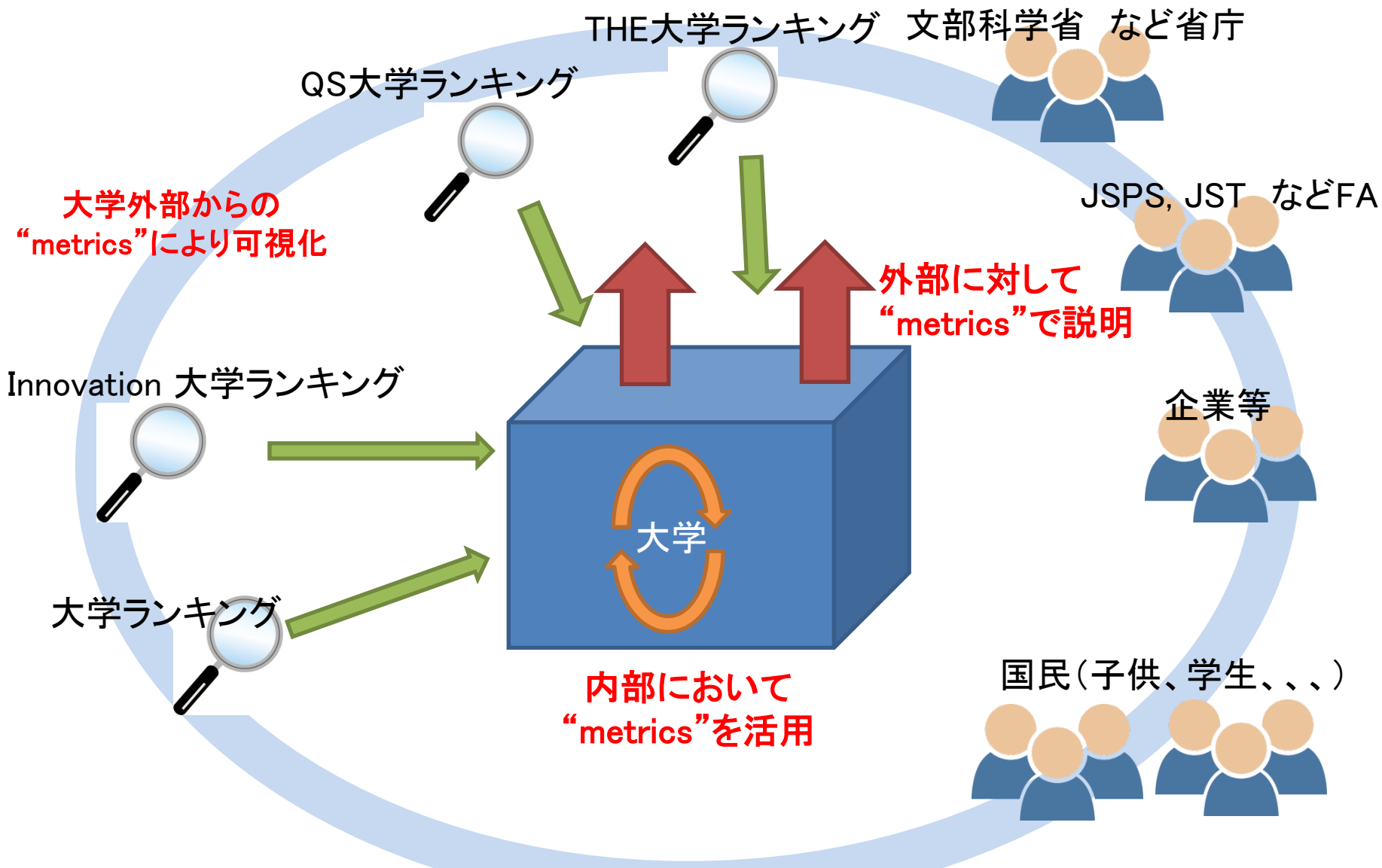
我々はどのようにこの
“metrics”に向き合い、研究
戦略を前進させていけば良
いか」の議論を成熟させるこ
となく“metrics”を活用に踏み
切らざるを得ない状況

我々とは・・・

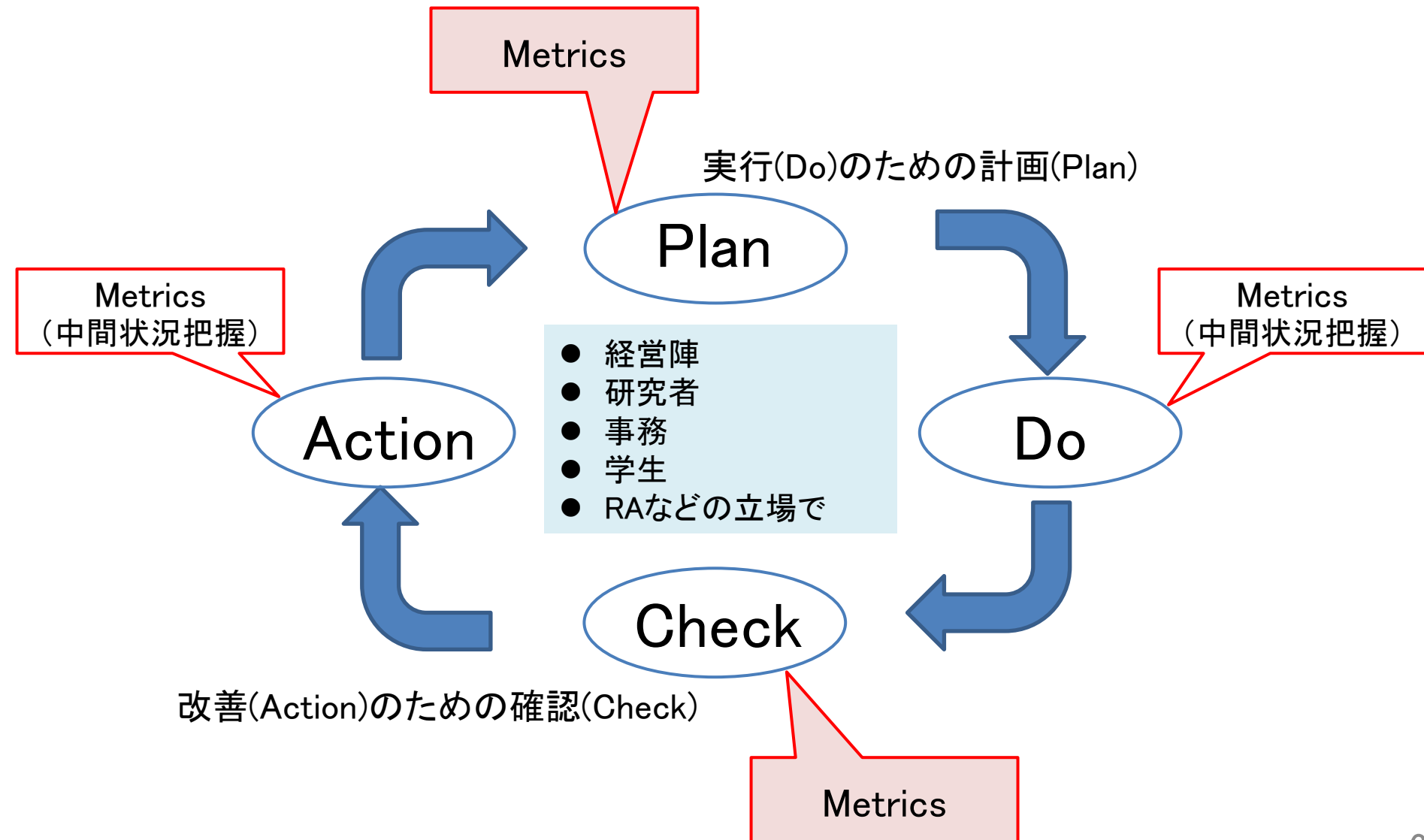
1. 分析者(研究IR担当者)
2. 分析結果を基に議論し、
機能強化を議論すべき者

計画立案(Plan)や達成度の確認(Check)における“metrics”の活用が自己目的化し、
その先に前進することを意識した“metrics”の検討や活用のための取組へと十分繋
がっていないのではないか？

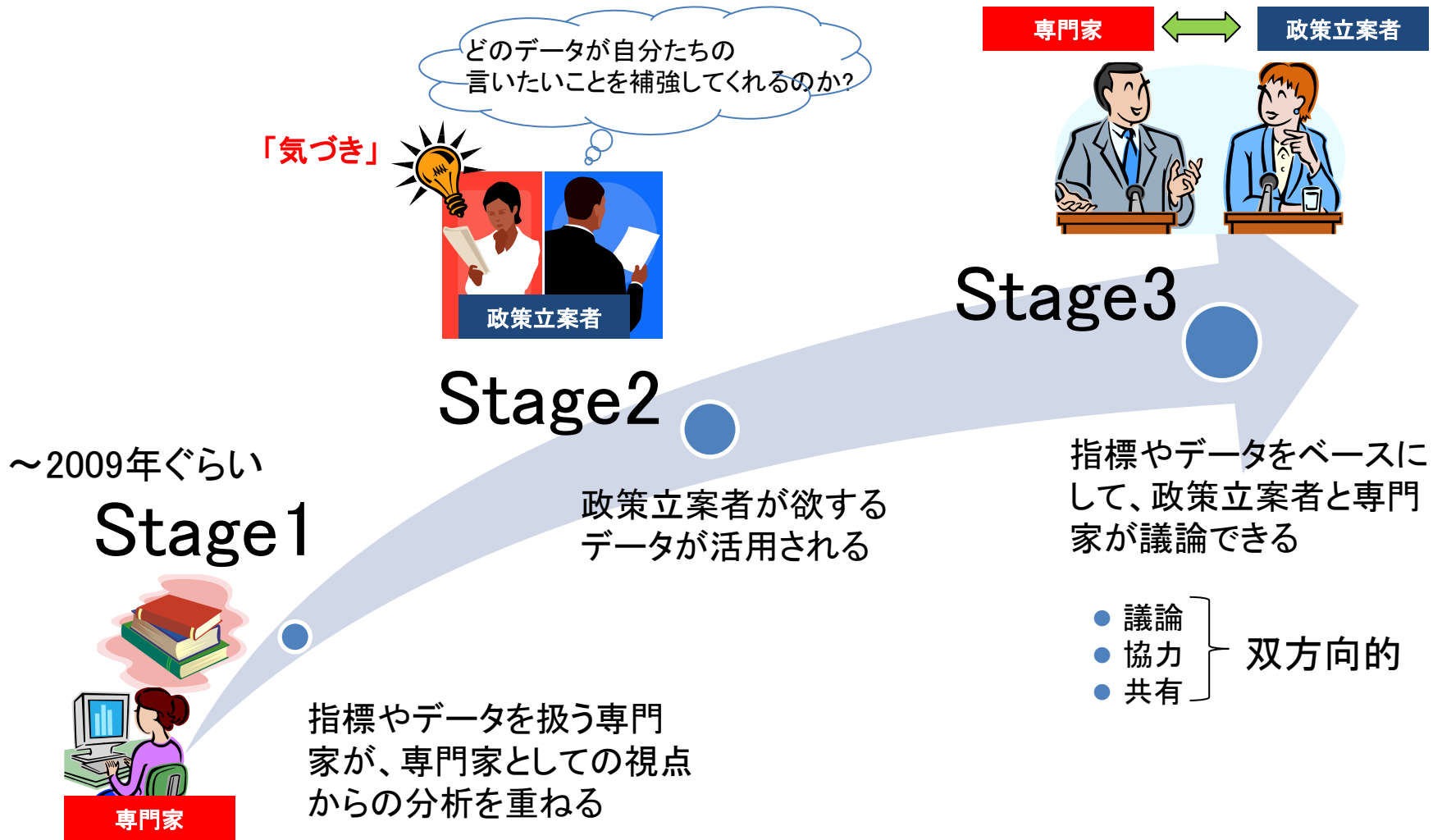
大学を取り巻くMetricsの目



研究戦略を前進させるために、Metricsが活用される場面



指標やデータを扱う専門家と政策立案者との関係における 3つのステージ



講演：研究戦略を前進させるには — 科学技術・学術政策研究所の調査研究からの示唆 —



講演者：

伊神 正貫 (NISTEP 科学技術・学術基盤調査研究室長)

カーボンナノチューブやグラフェンの研究を経て、2002年から科学技術政策研究に従事。博士(工学)。日本の科学技術の現状や現場の声を政策立案の場に届けるべく、科学技術システムの定点観測、科学における知識創出プロセスの分析、科学研究のマッピングなどを実施。最近の関心事項は、科学知識が生み出されるプロセスの理解とそれに基づくインセンティブ設計、研究活動からみた日本の大学システムの生態系の理解、人文・社会科学の成果測定など。

講演：大学で“metrics”にどのように向き合うか、 大学で本当に必要な“metrics”とは何か についての考察



講演者（オーガナイザー）：

阪 彩香（大阪大学 経営企画オフィス リサーチ・マネージャー）

東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程修了、博士（生命科学）
博士号取得後、2004年より、文部科学省科学技術・学術政策研究所にて勤務。計量書誌学的アプローチを用いた日本や主要国の研究力モニタリング、ベンチマーキング手法の開発、世界においてホットな研究領域の抽出手法の開発等に従事。2016年11月に大阪大学経営企画オフィス着任。